

2012 年度 決算説明会 主な Q & A

- Q1 米国セブン-イレブンの店舗に F C T I の A T M を設置出来る可能性・ロードマップはどのようなものか。
- A1 ご存知のとおり米国セブン-イレブンには既に A T M が設置されており、設置している会社との関係性を考えると簡単に解決出来るものではない。同社とセブン-イレブンの契約更改時にセブン-イレブン側やお客さまから F C T I の A T M を選択してもらえるように我々が努力していくというのが、現在の当社と言える精一杯のこと。
- Q2 減価償却の変更により今後の A T M 展開スケジュールに変更はあるのか。
- A2 変更はない。
- Q3 2013 年度の A T M 純増計画はどのような前提で立てたのか。A T M 純増台数は 1,177 台とあるが、セブン&アイ・ホールディングス発表のセブン-イレブン店舗の純増とほぼ同数となっている一方で、グループ外 A T M も約 200 台設置と説明されている。
- A3 計画はセブン-イレブンの店舗計画を頭に置きつつ、決算期のずれを考慮するなど当社がいくつかの前提を加味して策定したもので、当社が達成したい最低限の目標として純増 1,200 台を掲げている。
- Q4 減価償却方法の変更の理由は。
- A4 A T M は元々経年で収益率が落ちることはなく、毎年一定の利益が出る性質のもので定額法による償却が馴染む。ただ、これまでは技術革新を積極的に取り入れた新しい A T M を導入するために定率法により早期に償却してきた。第 3 世代 A T M で最新の技術を取り込み終えたと言える段階に来て、2013 年度中に設置の半分以上がその第 3 世代 A T M になることから改めて当社の A T M ビジネスモデルに即した定額法に変更したもの。また、定額法による減価償却が国際標準であることも変更理由のひとつ。
- Q5 F C T I の A T M の償却額と償却期間はどれくらいか。
- A5 F C T I の A T M は約 370 百万円で 5 年定額法で償却している。
- Q6 F C T I は償却前で黒字を確保しているが、セブン銀行本体と比べると収益力は低い。F C T I の今後の収益改善策は。
- A6 米国の A T M ビジネスの現状は日本に比べて少額決済における現金需要が低いことから 1 台当たりの件数は少ない。しかし、現金需要は決してなくなるものではなく、やり方次第で十分に商機拡大の余地はあると考えている。例えば米国の A T M は出金のみが主流だが、日本では 1 台の A T M で入金や送金などが出来るようになっており、こうしたことを参考

に米国でもA T Mの利用方法を拡大することは可能だと考えている。また、コスト面では現状でA T M本体も日本に比べると大幅に安く、ローコストオペレーションで利益を上げる仕組みだが、効率性を更に追及して利益率を上げていきたい。

Q7 海外送金サービスの送金先はどの国が多いのか。

A7 フィリピンが圧倒的に多い。当初ターゲットとして積極的に営業をしたことと、パートナーのウエスタンユニオンがフィリピンで送金サービスを告知していただいていることが結果に表れていると考えている。その他では、タイ、パキスタン、中国、ナイジェリアなどが続き、今後はそれらの国の件数を増加させられるよう営業対象を拡大していく。

以上